

## 株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
**定時株主総会** 毎年6月開催  
**基準日** 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日  
そのほか必要あるときは、あらかじめ公告して定めた日  
(中間配当金につきましては、第74期以降見送らせて  
いただいております。)

**単元株式数** 100株

**株主名簿管理人** 大阪市中央区北浜四丁目5番33号

住友信託銀行株式会社

**同事務取扱場所** 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒183-8701

東京都府中市日鋼町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) (住所変更等用紙のご請求) ☎ 0120-175-417

(その他のご照会) ☎ 0120-176-417

(インターネットホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

**同取次所** 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

**公告方法** 当社のホームページに掲載する

<http://www.daidoh-limited.com/>

ただし、事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行なう

**上場証券取引所** 東京証券取引所市場第一部

名古屋証券取引所市場第一部



**DAIDOH**  
FOR HIGHER QUALITY IN LIFE

株式会社ダイドーリミテッド

経営管理室

〒101-8619 東京都千代田区外神田三丁目1番16号

TEL.03-3257-5024 FAX.03-3257-5051

R100



当紙は100%大豆インクを使用しています

**DAIDOH**  
FOR HIGHER QUALITY IN LIFE

株式会社ダイドーリミテッド

<http://www.daidoh-limited.com/>

証券コード 3205



## 日本のみならず中国を始めとした海外を視野に、今後の市場拡大を図ってまいります。



代表取締役会長

羽鳥嘉彌



代表取締役社長

谷越孝治

株主の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに第85期(平成19年4月1日から平成19年9月30日まで)の営業の概況をご報告申し上げます。

### ■ 当中間連結会計期間の概況

当中間連結会計期間の我が国経済は、原油価格を中心とした原材料の高騰による製品価格の上昇など消費に与える影響はありましたが、企業業績の持続的な伸びもあり総じて堅調に推移いたしました。

この会計期間の業績につきましては、記録的な猛暑と残暑の影響により衣料製品事業が低調に推移し、事業撤退いたしましたファミリーカジュアル事業の売上高の減少もあり、売上高は15,348百万円(前年同期比5.7%減)となりました。営業利益は繊維・衣料業界全般に低調のなか営業損失24百万円(前年同期は営業損失105百万円)、経常利益676百万円(前年同期比30.1%増)となりました。中間純利益につきましては、投資有価証券売却益56億円を計上いたしましたことにより3,865百万円(前年同期は中間純利益139百万円)となりました。

単体業績の売上高は2,661百万円(前年同期比1.2%減)、経常利益は1,371百万円(前年同期比8.5%増)となり、投資有価証券の売却益56億円を計上いたしましたことにより中間純利益は4,105百万円(前年同期は中間純利益15百万円)となりました。

なお、株式会社ダイトレーディングは、平成19年10月1日をもって平成19年8月22日付で設立した株式会社ダイドーインターナ

ショナルに人員及び機能を移し解散いたします。また、同日をもってミリオンテックス株式会社を株式会社ダイドーインターナショナルに吸収合併させております。これにより衣料原料事業の一体的な組織運営と営業強化を推進するものであります。

当社といたしましては、厳しい経営環境におきまして「お客様第一」「品質本位」の基本を堅持して、グループ各社相互の連携と情報の共有化を進め、原料から商品企画・製造・販売までを一貫する特色を発揮して収益体質の構築と強化を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

### ■ 今後の戦略・ビジョン

当社グループは中期的に、衣料原料事業と衣料製品事業の2つのコア事業において、これまで構築してきた事業基盤を活かした成長戦略を強力に推進してまいります。

衣料原料事業におきましては、中国国内で現在6工場の生産体制が整い各工場の特性を生かした効率的な生産をすすめ、原料(糸・織物)の内製化比率を高め収益構造の強化を図ってまいります。加えて、(株)オンワード樺山(現・(株)オンワードホールディングス)との業務提携による生産数量の拡大、(株)ソトとの業務提携

による高品位な製品を効果的に生産する体制の構築を進めてまいります。

衣料製品事業におきましては、「ニューヨーカー」ブランドを主力とするSPA改革を推進しております。平成16年に導入した『ハウスタータンチェック』をメッセージ・シンボルとした展開により、ニューヨーカーの商品の魅力やブランド価値をショップ全体で発信する「トータルMD(マーチャンダイジング)」の完成度を高めてまいります。また、ショップの魅力アップの基礎となる人材の育成を視野に、改めて「ニューヨーカー」ブランドとしての総合的な販売マニュアルを整備し、これを基本とした教育・研修と現場教育を連動させ、より高い販売サービスの提供を目指しております。

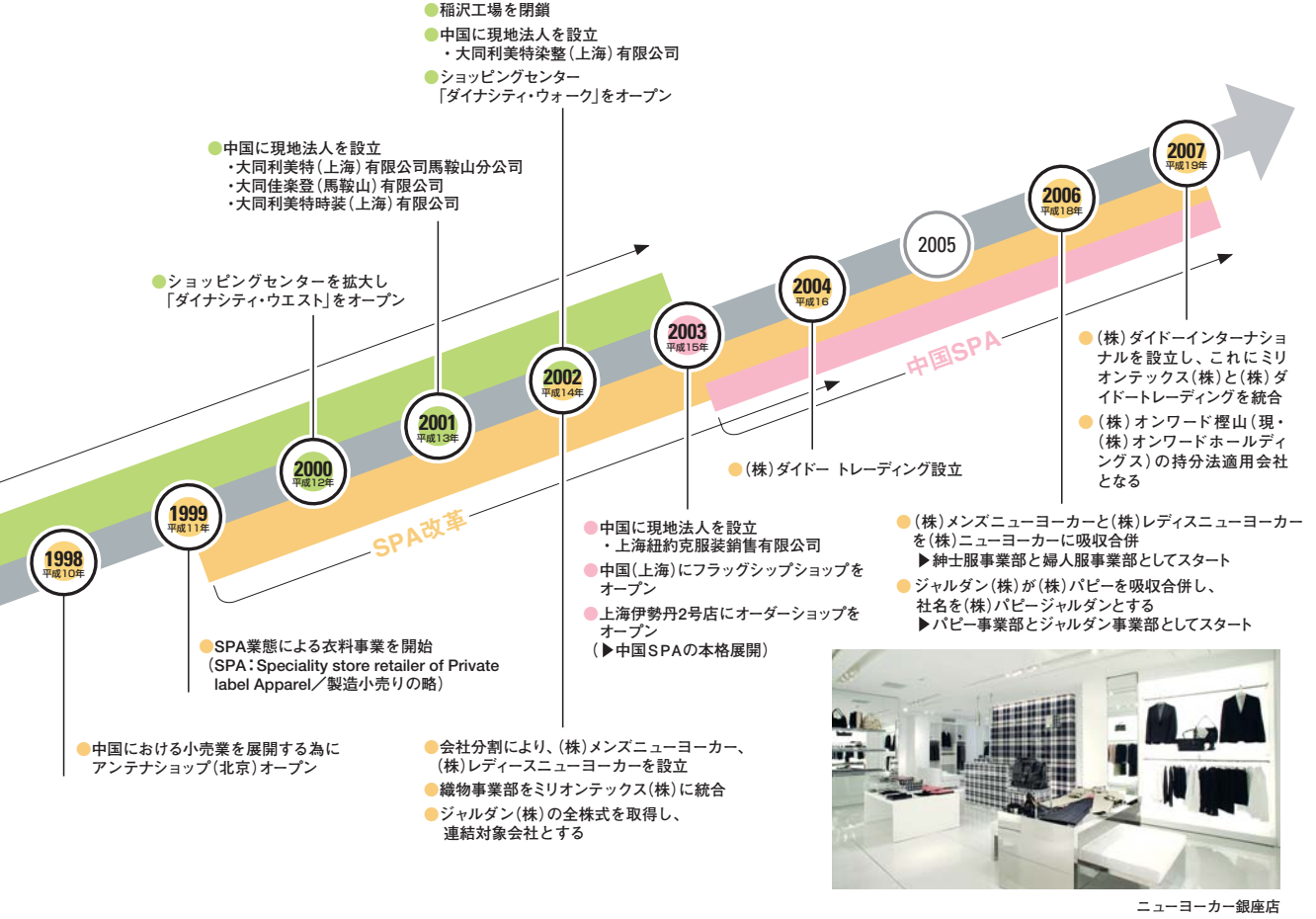
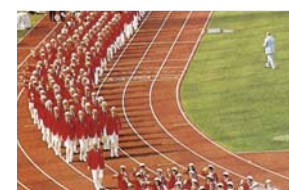
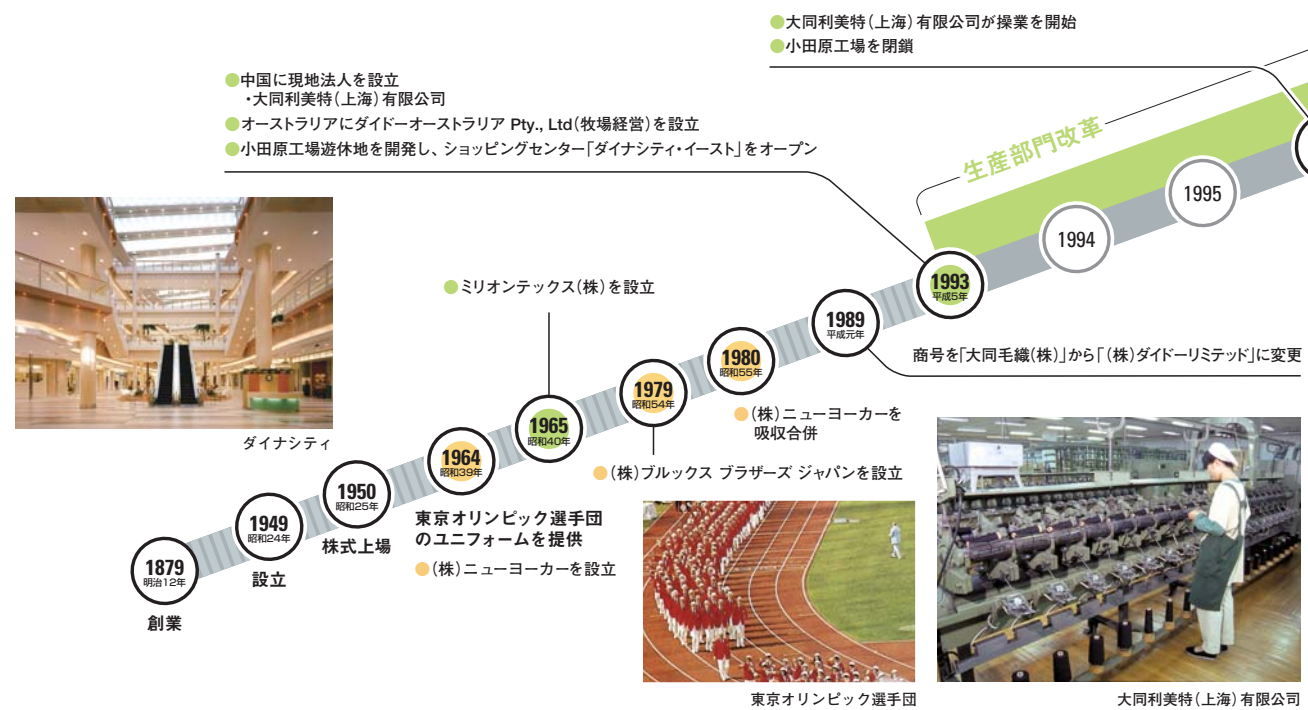
# 創業130年の歴史の中で、この15年間で最も変化に富んだ大改革時代となりました。

### 生産部門改革

今から20数年前となる1980年代、国際的な開放経済の始まりを目前に、当社は将来の急速な国際分業の進行を予期し、そうした中で当社グループが高い品質とコスト競争力を両立し続けるためには、国内生産から撤退し生産部門を中国へ移転する必要がある、という決断を下しました。そして、1987年より中国に技術者を派遣するなど十分な準備を行った上で、1993年に中国第1工場となる現地法人を設立しました。当社グループの「生産部門改革」はここから本格的なスタートを切りました。

### 国内製造工場の閉鎖と中国への工場投資

その後、中国においては現地法人の設立による工場建設をすすめ、2003年には国内工場を閉鎖し、「生産部門改革」がほぼ完了しております。中国6工場を通じて当社グループは、スーツから、カジュアルウェア、ニット製品、オーダーメイドスーツに至るまで原料からの一貫生産体制に対応できる環境を整えており、世界水準の品質に向けたステップアップに挑戦しております。



### SPA改革

従来の卸売業態での市場変化への対応が遅く機会損失が大きいマイナス点を改善し、不採算ブランドを整理することで経営効率を高めるため、経営資源を主力ブランドの「ニューヨーク」に集中させて1999年より「SPA改革」をスタートいたしました。

SPAは、自らが製造と小売りを行い店頭から収集した消費者ニーズをモノづくりとマーチャンダイジング(商品化計画)に的確に反映させることにより、顧客満足度の向上と収益力の強化を図るものです。

2003年からは、中国においてもこのSPAによる店舗展開がスタートしております。



# AMERICAN CLASSIC

in BOSTON



アメリカ東海岸に位置する  
NEW ENGLAND地方の古都「BOSTON」

ここは、英国の伝統と新大陸の合理主義から  
生まれた“アメリカンクラシック”の発祥地。  
NEWYORKERが提案する「アメリカンクラシ  
ック」は、古き良き正統派のスタイルを自由な  
コーディネートでシックに装うことを楽しむ時  
代のライフスタイルです。

Autumn & Winter Collection

## Women's

### ドレスがホットアイテム

通勤着のカジュアル化が進む  
中、今シーズンはドレスが注目  
アイテムです。ドレスとの着まわ  
しを考えたデザインのジャケ  
ットやシャツを取り揃えたほ  
か、自社工場製ニットも色、デ  
ザインのバリエーションを増や  
しています。



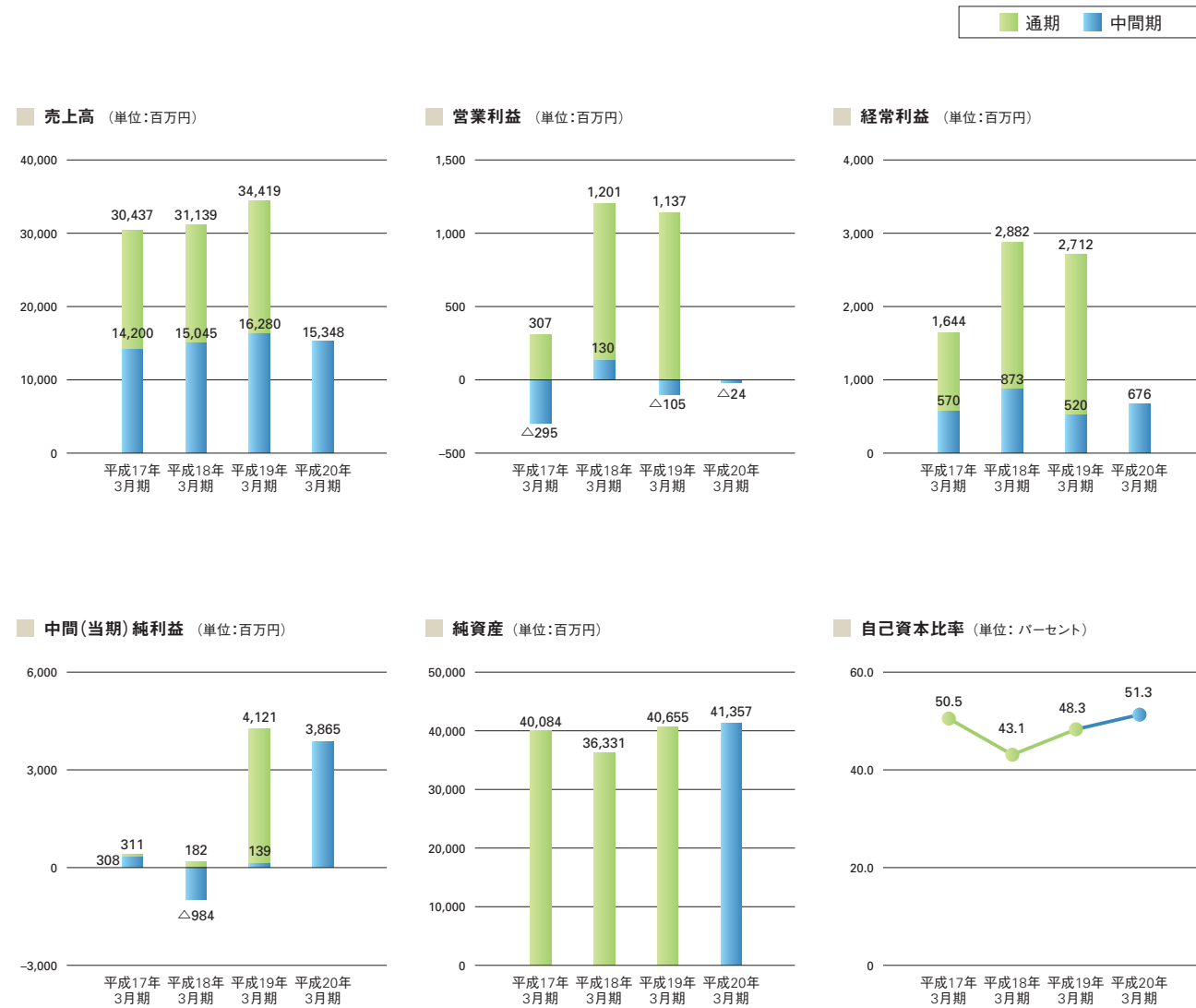
Autumn & Winter Collection



### オフィスカジュアルに対応

得意のビジネススーツに加  
え、この秋はオフィスカジュ  
アルを提案しています。ソフトな  
作りや軽く羽織れるシャツの  
ようなデザインなど、ジャケット  
のバリエーションを充実させ、  
コーディネートするスラックスの  
色柄、デザイン数も増やしま  
した。

## Men's



衣料原料事業

毛織物業界におきましては、豪州の大干ばつによる羊毛価格の高騰および原油価格の高騰による原材料価格の上昇などのコストアップを、衣料製品消費低調もあり毛織物販売において販売価格に転嫁出来ない厳しい状況が続いております。

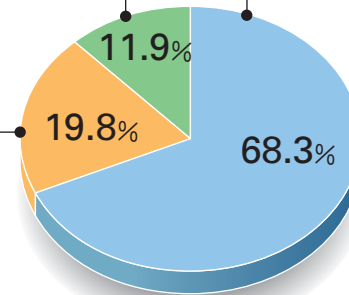
更に、中国製造工場群におきましても人件費が毎年度大幅に上昇し価格に転嫁出来ない状況下にあります。当事業の売上高は中国工場の受託加工売上の増加もあり1,880百万円(前期比6.9%増)となり、営業損失は135百万円(前期は営業損失254百万円)となりました。

衣料製品事業

アパレル業界におきましては、記録的な猛暑と残暑が9月末まで続き、夏物及び初秋商戦に大きな影響を与え、総じて低調に推移いたしました。

この様な状況の下で、主力となるニューヨーカーブランドの売上高は紳士・婦人衣料とも前年実績を下回りましたが、不採算ブランドであるギーブスアンドホークスの撤退やファミリー事業の終了もあり営業損失は微減となっております。

以上の結果、衣料製品事業の売上高10,752百万円(前年同期比7.8%減)営業損失373百万円(前年同期は営業損失387百万円)となりました。



不動産賃貸等事業

不動産賃貸等事業は、商業施設「ダイナシティ(小田原)」と自社保有ビルのオフィス賃貸管理が主な事業内容であります。

ショッピングセンターが全国的に出店ラッシュが続き、オーバーストアー気味ですが「ダイナシティ(小田原)」におきましては競合先が少なく堅調に推移しておりますが、リニューアル費用等の支出もあり、売上高は3,116百万円(1.2%増)、営業利益は1,005百万円(前年同期比4.6%減)となりました。

(注) 売上高構成比は、セグメント間の内部売上高を含む金額で算出しております。(合計額15,749百万円を分母として算出)

# 中間財務諸表(連結)

## 連結貸借対照表(要旨)

単位：百万円

	前中間期末 平成18年9月30日現在	当中間期末 平成19年9月30日現在	前期末 平成19年3月31日現在		前中間期末 平成18年9月30日現在	当中間期末 平成19年9月30日現在	前期末 平成19年3月31日現在
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
流動資産	13,939	19,176	20,317	流動負債	21,294	20,270	21,228
現金・預金	1,046	3,843	7,731	支払手形・買掛金	3,152	2,719	3,068
受取手形・売掛金	3,328	3,215	3,597	短期借入金	12,012	9,911	9,755
有価証券	—	2,517	100	長期借入金(1年以内)	2,916	2,916	2,916
たな卸資産	7,688	7,868	7,289	その他	3,213	4,722	5,486
繰延税金資産	511	853	692	② 固定負債	24,694	18,554	21,971
その他	1,368	894	915	長期借入金	6,251	3,335	4,793
貸倒引当金	△4	△15	△8	預り保証金	10,985	10,566	10,700
固定資産	67,210	61,005	63,537	繰延税金負債	5,612	3,077	4,739
有形固定資産	21,906	20,557	21,228	その他	1,845	1,575	1,738
無形固定資産	579	492	520	負債合計	45,989	38,824	43,199
投資その他の資産	44,724	39,955	41,788	<b>純資産の部</b>			
投資有価証券	41,749	37,441	38,985	株主資本	28,503	36,952	34,673
繰延税金資産	107	76	94	資本金	6,891	6,891	6,891
その他	3,129	2,680	2,948	資本剰余金	9,633	8,914	9,025
貸倒引当金	△262	△243	△239	利益剰余金	16,675	22,872	20,657
				自己株式	△4,697	△1,727	△1,901
				評価・換算差額等	6,596	4,170	5,783
				その他有価証券評価差額金	6,178	3,091	5,073
				為替換算調整勘定	418	1,079	710
				新株予約権	13	57	26
				少数株主持分	46	178	171
① 資産合計	81,149	80,182	83,855	③ 純資産合計	35,160	41,357	40,655
				負債純資産合計	81,149	80,182	83,855

① 資産合計／当中間期末の資産合計は、前期末に比べ36億73百万円減の801億82百万円となりました。これは主に、現金及び預金の減少、建物及び構築物の減価償却による減少、投資有価証券の減少などによるものです。

② 有利子負債／当中間期末の有利子負債(短期借入金＋長期借入金(1年以内)＋長期借入金)は、前期末に比べ13億2百万円減の161億62百万円となりました。

③ 純資産合計／当中間期末の純資産合計は、前期末に比べ7億2百万円増の413億57百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものです。また、自己資本比率も前期末に比べ3.0ポイント向上し51.3%となりました。これらの結果、財務の安定性は更に向上しております。

## 連結損益計算書(要旨)

単位：百万円

	前中間期 平成18年4月1日～ 平成18年9月30日	当中間期 平成19年4月1日～ 平成19年9月30日	前期 平成18年4月1日～ 平成19年3月31日
売上高	16,280	15,348	34,419
売上原価	8,125	7,784	16,353
売上総利益	8,154	7,564	18,065
販売費及び一般管理費	8,259	7,588	16,928
営業利益又は営業損失(△)	△105	△24	1,137
営業外収益	941	987	2,186
営業外費用	315	287	610
経常利益	520	676	2,712
特別利益	4	5,618	5,372
特別損失	180	177	1,160
税金等調整前中間(当期)純利益	344	6,118	6,925
法人税、住民税及び事業税	87	2,657	2,974
法人税等調整額	116	△399	△170
少数株主損失	0	5	0
中間(当期)純利益	139	3,865	4,121

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

単位：百万円

	前中間期 平成18年4月1日～ 平成18年9月30日	当中間期 平成19年4月1日～ 平成19年9月30日	前期 平成18年4月1日～ 平成19年3月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	939	△2,396	3,427
投資活動による キャッシュ・フロー	△563	1,361	4,919
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,581	△2,890	△2,947
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△23	37	57
現金及び現金同等物 の増減額	△1,228	△3,888	5,456
現金及び現金同等物 期首残額	2,275	7,731	2,275
現金及び現金同等物 中間期末(期末)残額	1,046	3,843	7,731

## 連結株主資本等変動計算書 当中間期(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

単位：百万円

	株主資本					評価・換算差額等			新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
平成19年3月31日残高	6,891	9,025	20,657	△1,901	34,673	5,073	710	5,783	26	171	40,655
中間連結会計期間中の変動額											
剰余金の配当			△1,645		△1,645						△1,645
中間純利益			3,865		3,865						3,865
自己株式の処分		△111		175	63						63
自己株式の取得				△0	△0						△0
その他			△5		△5						△5
株主資本以外の項目の中間 連結会計期間中の変動額(純額)						△1,982	369	△1,612	30	7	△1,575
中間連結会計期間中の変動額合計	—	△111	2,215	174	2,278	△1,982	369	△1,612	30	7	702
平成19年9月30日残高	6,891	8,914	22,872	△1,727	36,952	3,091	1,079	4,170	57	178	41,357



## 中間財務諸表(単体)

### 貸借対照表(要旨)

単位:百万円

当中間期 平成19年9月30日現在		当中間期 平成19年9月30日現在	
<b>資産の部</b>		<b>負債の部</b>	
<b>流動資産</b>	<b>8,472</b>	<b>流動負債</b>	<b>15,831</b>
現金・預金	2,667	支払手形	481
受取手形・売掛金	675	短期借入金	7,850
有価証券	2,517	長期借入金(1年以内)	2,916
繰延税金資産	600	その他	4,582
その他	4,395	<b>固定負債</b>	<b>19,297</b>
貸倒引当金	△2,386	長期借入金	3,335
<b>固定資産</b>	<b>61,943</b>	預り保証金	10,855
有形固定資産	13,684	繰延税金負債	2,625
無形固定資産	135	その他	2,480
投資その他の資産	48,123	<b>負債合計</b>	<b>35,128</b>
投資有価証券	46,912	<b>純資産の部</b>	
その他	1,653	<b>株主資本</b>	<b>32,166</b>
貸倒引当金	△442	資本金	6,891
		資本剰余金	8,914
		利益剰余金	18,087
		自己株式	△1,727
		評価・換算差額等	3,063
		その他有価証券評価差額金	3,063
		新株予約権	57
<b>資産合計</b>	<b>70,415</b>	<b>純資産合計</b>	<b>35,287</b>
		<b>負債純資産合計</b>	<b>70,415</b>

### 損益計算書(要旨)

単位:百万円

当中間期 平成19年4月1日～ 平成19年9月30日	
<b>売上高</b>	<b>2,661</b>
<b>売上原価</b>	<b>1,603</b>
<b>売上総利益</b>	<b>1,057</b>
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>558</b>
<b>営業利益</b>	<b>498</b>
<b>営業外収益</b>	<b>1,126</b>
<b>営業外費用</b>	<b>253</b>
<b>経常利益</b>	<b>1,371</b>
<b>特別利益</b>	<b>6,363</b>
<b>特別損失</b>	<b>1,380</b>
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>6,354</b>
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	<b>2,629</b>
<b>法人税等調整額</b>	<b>△380</b>
<b>中間純利益</b>	<b>4,105</b>

### 株主資本等変動計算書 当中間期(平成19年4月1日～平成19年9月30日)

単位:百万円

	株主資本										評価・換算差額等		新株 予約権	純資産 合計	
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計			
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	資本 剰余金 合計	固定資産 圧縮積立金	別途 積立金	繰越 剰余金	その他利益 剰余金計							
平成19年3月31日残高	6,891	8,147	878	9,025	959	3,055	8,090	3,522	15,627	△1,901	29,643	5,103	5,103	26	34,774
中間会計期間中の変動額															
剰余金の配当								△1,645	△1,645		△1,645				△1,645
中間純利益								4,105	4,105		4,105				4,105
圧縮積立金取崩額						△144		144							
自己株式の処分			△111	△111						175	63				63
自己株式の取得										△0	△0				△0
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)												△2,040	△2,040	30	△2,010
中間連結会計期間中の変動額合計	-	-	△111	△111	-	△144	-	2,604	2,460	174	2,523	△2,040	△2,040	30	512
平成19年9月30日残高	6,891	8,147	767	8,914	959	2,911	8,090	6,126	18,087	△1,727	32,166	3,063	3,063	57	35,287

## グループ編成

### ■ 事業活動と主要なグループ会社

当社グループの連結子会社は19社、持分法適用関連会社は2社あり、取り扱い品目や顧客は各社により異なっておりますが、グループを通して『お客様第一』『品質本位』の基本を共有して事業運営に当たっております。



### 衣料製品事業

販売	株式会社ニュー Yorker 上海纽约克服装销售有限公司 (SHANGHAI NEW YORKER CLOTHING SALES CO., LTD.) 北京纽约克服装销售有限公司 (BEIJING NEW YORKER CLOTHING SALES CO., LTD.) 株式会社パピージャルダン 株式会社ユースーツ 株式会社ギーブスアンドホークスジャパン *株式会社ブルックス ブラザーズ ジャパン	
製造	大同利美特時装(上海)有限公司 (DAIDOH LIMITED CLOTHING (SHANGHAI) CO., LTD.) 大同佳樂登(馬鞍山)有限公司 (DAIDOH JARDAN(MAANSHAN) CO., LTD.) 株式会社ダイドーインターナショナル 株式会社ダイドートレーディング 大同利美特貿易(上海)有限公司 (DAIDOH LIMITED TRADING (SHANGHAI) CO., LTD.) * = 持分法適用関連会社	 
買易		

### 衣料原料事業

製造・販売	ミリオンテックス株式会社 芭贝(上海)毛线编结有限公司 (PUPPY(SHANGHAI) YARN HAND-KNIT CO., LTD.) *株式会社リバティジャパン	
製造	大同利美特(上海)有限公司 (DAIDOH LIMITED (SHANGHAI) CO., LTD.) 大同利美特染整(上海)有限公司 (DAIDOH LIMITED DYEING & FINISHING (SHANGHAI) CO., LTD.) * = 持分法適用関連会社	

### 不動産賃貸等事業

株式会社ダイナシティ	
株式会社ダイドーアドバンス	
大同利美特(上海)管理有限公司 (DAIDOH LIMITED (SHANGHAI) MANAGEMENT CO., LTD.) 株式会社ダイドーシェアードサービス	

(特に記載のない限り平成19年9月30日現在の状況です。)

会社概要

株式会社 ダイドーリミテッド  
DAIDOH LIMITED

創 業 明治12年(1879年)1月  
設 立 昭和24年(1949年)10月17日  
資 本 金 6,891,851,938円

取締役および監査役

- \* 取締役 会長 羽 鳥 嘉 彌
- \* 取締役 社長 鳥 越 孝 治
- 取締役 副社長 安 江 恵
- 取締役 大川 伸
- 取締役 鈴木 森 夫
- 取締役 福井 勝 光
- 取締役 和賀 重 明
- 監査役(常勤) 大木 邦 治
- 監査役(常勤) 大 嶋 啓 介
- 監査役(弁護士) 桃 尾 重 明
- 監査役(弁護士) 田 口 哲 朗

(注) 1. \*印は代表取締役であります。  
2. 桃尾重明、田口哲朗の両氏は、社外監査役であります。

主要な事業所

本社 東京都千代田区外神田三丁目1番16号  
小田原開発管理センター 神奈川県小田原市中里208番地

従業員の状況

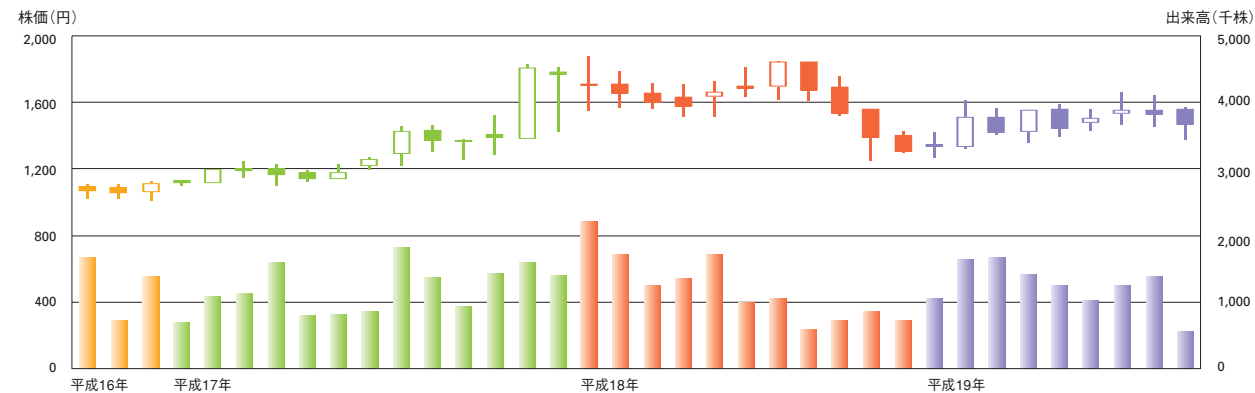
株式会社ダイドーリミテッド 55名  
企業集団の合計 2,151名

主な借入先

借入先	借入金残高
住友信託銀行株式会社	3,850百万円
株式会社みずほコーポレート銀行	3,130百万円
株式会社三菱東京UFJ銀行	770百万円

(注) 上記には株式会社みずほコーポレート銀行を幹事とする24行の総額6,251百万円のシンジケートローンは含まれておりません。

株価の推移グラフ

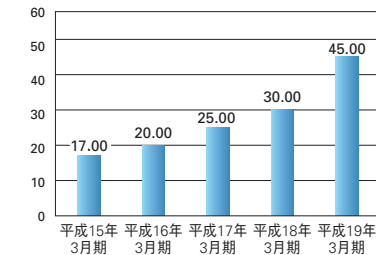


株主の皆様への配当について

当社グループは、株主の皆様への利益還元を最重要課題のひとつに位置づけております。配当政策といたしまして、「連結経常利益の30%を基準とする業績連動型」と基本方針を定め、経営環境、内部留保の充実等を総合的に勘案して配当案を作成いたしております。2007年3月期よりキャッシュ・フローの発生する特別損益(投資有価証券等の売却や固定資産等の売却)の利益増加分につきましても、その30%をその後の数年間にわたり基準配当原資として加えることといたしました。

前期末の配当金(年間配当)は1株当たり45円となっております。

1株当たり配当金(単位:円)



株式の状況

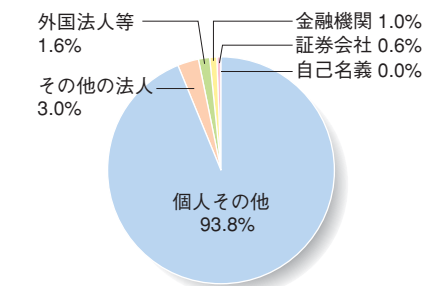
発行可能株式総数 150,000,000株  
発行済株式の総数(自己株式を含む) 37,696,897株  
株主数 3,939名

大株主

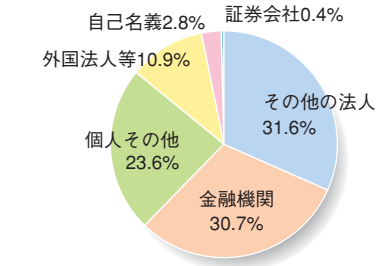
株主名	所有株式数(百株)
株式会社オンワードホールディングス	66,000
三井住友海上火災保険株式会社	23,457
住友信託銀行株式会社	16,340
日本スタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,970
株式会社ソニー	12,500
ジェービー・モルガン・チェイス・バンク380084	11,675
株式会社みずほコーポレート銀行	11,283
ソニー生命保険株式会社	11,110
明治安田生命保険相互会社	9,310
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,031

(注) 自己株式につきましては上記大株主から除外しております。

所有者別株主数分布



所有者別株式数分布



\*本報告書に記載されている計画、戦略などは、将来の予測であってリスクや不確定要素を含んでおります。